

いろいろなつながり

—田中勝さん、そして田中勝先生ありがとうございました—

Human Relationships mean A Lot.

岡 久行*

OKA, Hisayuki

この送る言葉を書くに際して、田中さんと田中先生、そして私とのこれまでのつながりを振り返ってみたくなった。「人と人のつながり」や「人脈」とは新卒時代に私の指導役の先輩から、またしばらく経ってからは私が勤務するホテルとは別のホテルの方からもビジネス上での大切なこととしてよく聞かされた言葉だ。有難いアドバイスであり重要性も頭では分かっていたが、その当時は社会経験や実体験の少なさもあり実感はなかなか湧かなかった。それが今、歳をとったということかもしれないが実感できることがいくつか蓄えられていることに気づかされた。

田中さんも私も新社会人としての職場は大学ではない。私がホテルの新入社員として蝶ネクタイを締めレストランでシルバーやグラスを磨いていた頃、ひと回り以上年上の田中さんはトロントにて大手私鉄系のホテルを切り盛りされたあと、同系列の日本の赤坂にあるホテルのマネジメント職として指揮を振っておられた。時が経ち、平成バブルが頭を持ち上げてきた1980年代後半、私は舞浜で新規開業をしたばかりのホテルに勤務し、田

中さんは横浜のみなとみらいで新規開業を控えたホテルにいらっしゃった。そんな折、私が所属する部の数名がそのホテルに転職することになった。ホテル業界では新規に開業するホテルなど他ホテルで働く、いわゆる転職は珍しいことではなく、私が在籍していたホテルも新卒者やそのような中途採用者などを加えてオープンした。しかし、その転職希望者数は想定を超えた。更にタイミングが悪いことに繁忙期を間近に控えていたこともあり、転職希望者の多くを部内に抱えていたドイツ人部長は血相を変えて私たちのいるオフィスに駆け込んできた。状況把握や善後策に私も携わったが、対応に苦慮する事案も次々と発生した。ヒューマンリソースマネジメントという点においては貴重な業務経験を積む機会とはなったが、そのようなことは後になって振り返った時に思えることであった。

田中さんがおられるホテルがオープンし、私がいたホテルのドタバタもそうこうしているうちに落ち着いた。しかし、それからしばらくの間、私はその新しく開業した話題性の高いホテルの視察

*本学経営学部准教授

の必要性は感じつつも足を向ける気にはなれずにいた。この間に田中さんが3代目総支配人としてご就任されている。やがて転職していった元同僚達との交流が復活するにつれ、そのホテルに出入りするようにはなったが、田中総支配人とお会いすることはまだなかった。

当時の田中さんはその外資系ホテルチェーン初の日本人総支配人として、さらにはご就任当初から数々の話題を提供される業界内でも超が付くほど有名な方となられていた。なかでも鮮明に覚えているのが、ホテル名を冠したカップラーメンの販売だ。日系の航空会社では機内食としてカップメンが既に提供されていたと記憶しているが、ホテル業界では前代未聞の商品であり発想だった。それゆえ、計画に対する社内の異論や反対は強かったのではないかと思う。しかし、まだ見ぬ有名総支配人田中さんの存在感が私の中に印象付けられた一件であった。私もそのラーメンをいくつか頂戴した。タダで入手したからではないと思うが、思った以上に美味しかった。なお、そのラーメンはホテル内の客室やショップだけではなく、大手コンビニエンスストアでも期間限定商品として販売されていた。このあたりも田中総支配人のビジネス感覚と実現にむけた強いリーダーシップがあったのだろう。

それから数年後、ホテル業界人の勉強会を目的とした塾の立ち上げを行なった際、事務局として立ち上げの責任者だった私は依然としてお会いしたことの無い田中総支配人を迷うことなく副塾長として構想に入れた。その後、就任を依頼するべく2000年の冬にみなとみらいのホテルへ向かった。この時が田中さんとの初めての対面となる。初対面の者からの唐突な依頼にも拘わらず、田中さんは快く?ご承諾くださり、塾を無事に立ち上げることができた。そして、塾が始まった以降も数々の厚かましいお願いごとにも快く?ご協力いただき、15年目を迎える今は塾長として業界人育成の

先頭に立っていただいている。

私が亜細亜大学に移り、しばらくして当時のホスピタリティ専攻でホテル分野を教えていただけの方が急遽必要になった時には、田中さんのことしか思い浮かばなかった。しかし、前回と同様に唐突な依頼になること、さらには既に他大学からの要請を受けて教え始めておられていたことなどもあり不安はあったが、2度目の依頼も快く?ご承諾いただき07年4月に亜細亜大学の田中先生が実現した。

こうして亜細亜大学が田中さんとの初めての同じ職場となった。その場が武蔵境という地でしかも大学になろうとはお会いした当時よりもよりその後も夢にも思わなかった。田中先生には授業や学生のことに加えて、入試での面接や会議など多くのことにも携わっていただいた。しかもそれらの全てにご出席いただき貴重なご意見なども頂戴した。また、新入社員よりも若い学生達からの信頼も厚く、それを知った田中さんの昔の部下が驚くほどであった。私の知人で田中さんの元部下によると「田中 GM も変わった」とのことだ。職場の部下と学校の学生では対応や表情などが、相手に違っても不思議ではないが、いずれにしてもこのへんのところはホテル業界では同じ職場で働く機会がなかったので詳しくは分からない。しかし、面倒見の良さは元部下だけではなく学生達からも聞いており、こちらは以前も今もそして場所にも関係のない、田中さんと田中先生に共通した変わらないことだろう。田中先生が毎週のように学生達のために用意された資料や配布物などを拝見させてもらうと私も勉強になった。そして亜大からの帰り道などにお聞きしたホテル業界に対する見方や意見はとても参考になった。

田中さん、そして田中先生これまで本当に有難うございました。しかしながら、人と人のつながりがこれで終わるわけではありません。そして2

度あることは3度あるとも言います。これからの業界との距離について考え中ということは何いしましたが、業界はまだまだ田中さんのご経験や見識を放っておくようなことにはならないと思います。私の3度目の唐突な依頼もまだこれからです。何を願うことになるのか今はまったくわかりませんが、3度目はI. W. ハーパー持参で参上さ

せていただこうと考えています。その時もこれまで通り快くご承諾くださいますようお願い申し上げます。

田中さんの益々のご健勝とご活躍を心から祈念しております。

(2014年12月吉日)